

本校の教育目標(本科)

本校が育成をめざす技術者像

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者」

このような技術者の育成をめざして、以下の5項目(A)～(E)を本校の教育目標とする。また、それらを具体的に説明したものが(A)－1～(E)－3である。

- (A) 国際人としての教養を高め、人間社会や自然環境に対する責任感及び倫理観について考えられる技術者
- (A)－1 世界的視野から日本の文化、社会並びに他国の文化、社会を複眼的にとらえられる。
 - (A)－2 人間社会に対する技術者としての責任を自覚し、自己の倫理観を深められる。
 - (A)－3 自然環境に対する認識を深められる。
- (B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用した問題解決に取り組める技術者
- (B)－1 校外実習などを通じて社会が要求している問題を見出せる。
 - (B)－2 線形代数、微積分、微分方程式などに関する知識を用いた問題解決に取り組める。
 - (B)－3 力学、電磁気学などの物理や化学に関する知識を用いた問題解決に取り組める。
 - (B)－4 情報技術に関する知識を運用できる。
- (C) 日本語で論理的に記述・討論する経験を積み、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、口頭発表ができる技術者
- (C)－1 日本語で科学技術論文を作成できる。
 - (C)－2 自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき、論理的な討論ができる。
 - (C)－3 英語による基本的なコミュニケーションができる。
- (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣^(D1)をみがき、複合的な技術開発を進められる能力^(D2)を高めた技術者
- (D)－1 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系を含む工学の基礎となる学問分野について、自主的かつ継続的に学習できる。
 - (D)－2 専門分野における工学的問題の解決を通じて、その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げられる。
 - (D)－3 みずからの専門分野において、複合的な視野で問題点を把握できる。
 - (D)－4 技術開発を進めるに際して、安全、環境に対する認識を深められる。
- (E) 「ものづくり」を重視^(E1)し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力^(E2)を高めた技術者
- (E)－1 与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現できる。
 - (E)－2 与えられた製作課題を計画的に製作できる。
 - (E)－3 多様な条件の下で、技術的構想や創造的思考を卒業研究としてまとめられる。

本校の教育到達目標(専攻科・JABEE共通) (平成25年度版)

本校が育成をめざす技術者像

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者」

このような技術者の育成をめざして、以下の5項目(A)～(E)を本校の教育到達目標とする。また、それらを具体的に説明したものが(A)－1～(E)－3である。

- (A) 国際人としての教養を身につけ、人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者
- (A)－1 世界的視野から日本の文化、社会並びに他国の文化、社会を複眼的にとらえて、両者のあるべき関係について説明できる。
 - (A)－2 人間社会に対する技術者としての責任を自覚し、自己の倫理観を説明できる。
 - (A)－3 自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明できる。
- (B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者
- (B)－1 インターンシップ、工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出せる。
 - (B)－2 線形代数、解析学などに関する知識を応用して問題解決を遂行できる。
 - (B)－3 力学、電磁気学などの物理や化学に関する知識を応用して問題解決を遂行できる。
 - (B)－4 情報技術に関する知識を応用して問題解決を遂行できる。
- (C) 日本語で論理的に記述・討論ができ、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、表現力豊かに口頭発表ができる技術者
- (C)－1 日本語で科学技術論文を作成できる。
 - (C)－2 自分の研究成果を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき、論理的な討論ができる。
 - (C)－3 英語によるコミュニケーションができ、専門分野において英語による口頭発表ができる。
- (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣^(D1)を身につけ、複合的な技術開発を進められる能力^(D2)をもった技術者
- (D)－1 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系を含む工学の基礎となる幅広い学問分野について、自主的かつ継続的に学習できる。
 - (D)－2 専門分野における工学的問題の解決を通じて、その専門技術と知識の統合及び研鑽を継続的に積み上げられる。
 - (D)－3 他の専門分野の知識も身につけ、複合的な視野で問題点を把握できる。
 - (D)－4 技術開発を進めるに際して、安全、環境について配慮すべき事柄を認識し、説明できる。
- (E) 「ものづくり」を重視^(E1)し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力^(E2)を有する技術者
- (E)－1 自ら設定した製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現できる。
 - (E)－2 自ら設定した製作課題を計画的に製作できる。
 - (E)－3 工学知識や技術を統合し、技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめられる。